

「私達まつり」第1弾！
卒業生による授業を通してことばの学びを深化させる試み

特別授業

森木乃美

坂井田暖

藤本藍里

研究協議

杉本 舞

植山俊宏

梶井英人

小山秀樹

「私達」は現在、
こんなふうを考え、
生きていますスペシャル
—「私達まつり」授業・研究協議編—
(2024.11.15)

<画 川口麻里亜（総合学科16期）>

II

学校設定科目「私達が立っている場所」開講25周年記念
「私達まつり」第1弾 卒業生による授業・研究協議・まとめ

ごあいさつ

「私達が立っている場所」という授業について、私自身の生活史をまじえて少し書きたいと思います。10代の私は本ばかり読んでいました。人間と社会、自分自身をどうとらえたらよいか見当がつかず、悩み、考えていくつかの小説めいたものを書いたりもしました。そんな私を救ったのは、高校時代の尾谷誠基先生の国語の授業でした。先生は文学作品を共同で読み進める演習授業を通して、人とともに持つことばの凄みを私に教えてくださいました。私ひとりのことばから、人とともに持つことばへ。つづく大学時代は読書会、文学雑誌の発行、映画づくりと、人とともに活動し、さらに私のことばは開かれていきました。

そんな私が国語の教員となり、次世代に生きる人のことばを鍛えることを職業とするのは、自然であったかもしれません。「次世代とともに生きることばを紡ぐ」という論理は、それが困難な状況のなかでどう可能かという生き方の問題となりました。「論理は終わった。あとは運動として生きるだけだ。」と大学時代の友人に宣言して私の大阪での教員生活は始まりました。

4つの学校を経験しました。ことばは人間の性質、資質、成育の過程などからさまざまにあらわされます。私は、獲得したことばを蓄積してよりよく生きてほしいという願いをもとに、特別な場面をつくってことばを共有することを常にこころがけて授業を続けました。国語には、単元的な学習という深い蓄積があります。名のある、また身近な先輩方の実践の場面と指導のことばに大きく勇気づけられたことは言うまでもありません。つたない実践のなかから、「私達が帰っていく場所」「私達が立っている場所」「私達がつくっていく場所」という単元の着想を得ました。たしか35歳の時だったと思います。「帰っていく場所」は、主に古典を教材にしながら自身の根拠を見つめる授業です。「立っている場所」では社会の課題を明示し、どう生きるかを考えます。「つくっていく場所」は、今後の自身を構想し、ことばにする学習です。これらの3つの単元を通して、若い学習者のことばを鍛え、次世代とともに私も救われ、豊かに生きることばのつなげたいと考えました。なかでも「私達が立っている場所」は、3つの中心ともなる単元で、今宮高校で国語科学校設定科目として受講者とともに育ち、25年を迎えました。

本日はお忙しいなか、「私達が立っている場所」25周年記念事業「私達まつり」にご来校いただき、ありがとうございます。「私達が立っている場所」の受講生は、およそ800名を数えます。16期森さん、24期坂井田さん、27期藤本さんの世代の違う3人の受講した卒業生が、現世代の高校生に向けたことばは、どのような場面をつくるのでしょうか。また、「私達」の授業を25年見守ってくださっている植山俊宏先生には、今日もおいでいただきました。杉本舞先生は、私が教え、森さんが教わった先生です。違う世代がことばを交わす場面をつくることは、世代を超えたことばの蓄積となり、現在と今後の自身と社会を支え、豊かにすることになると考えます。そうした運動を続けることによって、私は、次の世代のことばの生活に資したいと思います。

(2024.11.15)

小山孝樹

目次

ごあいさつ

1 「私達」は現在、こんなふうを考え、生きています _____ 6 —卒業生による現役高校生への授業—

1-① 授業動画

1-② 授業資料

1-③ 卒業生の授業を受けて —現役高校生の声—

1. 年代が近い方が話してくださったこともあり、自分の生活に結びつけやすかったです。
2. 話し方がとても上手く聞きやすかったです。一学期に学んだ内容をまた聞くことができ、
3. 自分たちが学んだこと以上のことをしれたので良い発表だと思いました。
4. 今回私たち祭りに参加して思ったことは、一人一人がなにか目標や、目的にむかって努力して
5. 卒業生の方方にお話を伺って、自分たちが授業で実際にやった内容だったけど私たちとはまた
6. 私たちが授業で理解していたことよりも詳しく知ることができる授業をしてくださって、
7. 今までの授業でわからなかったことが今回の私たち祭りでしっかりと分かった。
8. 今まで学んだ教材でこんなにも自らの生活に当てはめることができるなんて凄いな
9. 今回の授業で私たちの先輩の講義を聞いて本当にスピーチが上手いんだなと思いました。
10. 来られた発表された3人の方から僕は人生に直接繋がるような話をたくさん聞けました。
11. 自分の中でテキストをきちんと深く読めていたと勝手に思い込んでいましたが、
12. これまでやってきた教材は内容は違っても、繋がっていることがわかりました。
13. これまで私たちも授業をした教材について、3人の方から改めて授業を受けて新しく感じた
14. ふるさとは生まれた場所や境遇という今変えようと思っても変えることができないもの。
15. 自分たちが授業した内容をより詳しく、大学生活など自分の生き立ちなどに沿って話をして
16. 今まで学んできた教材をまた、纏めとして学び直せたので何を伝えたいのか、
17. 沢山の偉い人達が来ていてとても緊張した。小山先生の凄さに少し気づいた。
18. 自分が想像していたものよりも祭りって感じでまさか法被を着ているとは思わなかったです
19. 同じ授業を受けた今までの卒業生だからこそ身近に感じ、問いや考えを受けたり伝えたり
20. それぞれの人が自分の実体験とともに説明していて、忘れかけていた内容でもすぐに理解
21. 藤本さんの事を1歳しか違わないのにこんな大勢の前で普通に授業していて凄いなあ
22. 3人の話を聞いて、3作品についての理解がより深まりました。
23. 藤本さんは「である」と「する」ことに書いてある、「自由を祝福することは易しい。
24. 今回の私たち祭りで学ぶことがたくさんありました。まず藤本さんの話では、
25. 3人の話を聞いていて1番心に残ったのは森木乃美さんの話でした。
26. 本文の内容をわかりやすく説明しつつも、自分たちが調べて発表した時とは全く違った視点

27. 坂井田さんも森さんも藤本さんも「であることととすること」や「文学のふるさと」、「安楽への
28. 3人の私達の履修者の方のお話を聞いて、とても面白かったです。
29. 私達の授業で文章を読んだだけでは、あくまで「聞いた話」、そして「精読しただけの文章」
30. 言葉の意味や背景、作品の想いなどを班のメンバーと話し合いながら「どう伝えるのか？」
31. 藤本さんの話で大学に行ってただ講義を受けて帰るだけではダメで、
32. いい意味で自己中心的に生きることが大切です。まずは自分を何よりも大切に！！
33. 他の授業ではなかなか経験できない企画なのでとてもいい刺激になった。
34. どういう社会に生きているのかとかすべきこととか社会はどのように変化し今の私達がある
35. 生徒たちのディスカッションから発表、「私達まつり」、研究協議まで見学させていただき

研究協議について

1. 僕はこれまでの私たちの学習での教材をまだ完全に理解できていないところがあって、
2. 今回選ばれた2人が本当にすごかったです。
3. 授業をしてくださった3人各々自分の経験を絡めて分かりやすく、かつみんなに考えさせる
4. 杉本先生がおっしゃっていた「AIでは、人間のもやもやした気持ちは絶対に表現できない。

1-④ 現役高校生への授業を終えて —授業者3人のふりかえり—

1. 森木乃美さん（四天王寺高等学校・中学校教諭 総合学科16期）
2. 坂井田暖さん（大阪医療センター附属看護学校3年 総合学科24期）
3. 藤本藍里さん（京都女子大学法学部法学科1年生 総合学科26期）

2 「私達まつり」第1弾、研究協議はこう行われた _____ 16

3 「私達まつり」第1弾、参加者のことば _____ 22

3-① 授業について

1. 先輩たちと生徒が同じ文章で繋がっているということが、この授業の肝だと感じました。
2. 高校生の生徒たちが、自分たちで読み解いた作品を、卒業生の同じ教材で学んだ先輩たちが、
3. 安易な言葉になりますが、参加でき本当によかったです。
4. テキストを、自分に落とし込んで、自分の経験に紐付けながら、自分を支える軸にもできる。
5. ことばを掘り下げ、養うことで、自身の人生、さらには社会を豊かにしていこうという
6. これまでの受講生が同じ教材を通して繋がっていることがわかる授業でした。
7. 廊下での見学でしたので、登壇されている方の話が聞こえづらくて必死で耳を傾けて
8. とても興味深い授業でした。3人の卒業生がしっかりとした考えのもとに話をされていて、
9. 50分の授業を、卒業した受講生3名が担当すると聞き、時間配分はどうなのだろう
10. 素晴らしい授業を拝見させていただき、ありがとうございました。
11. 協議でもコメントいたしましたが、卒業生授業者の教材理解と、その授業内での共有
12. 今まさに勤務校で2年生に「である」と「する」ことを授業しています。
13. 小山先生が植えた種子が生徒の皆さんの中で芽を出し、新しい樹木となって、新たな種子

14. 授業は20分ほどしか見れず…卒業生に自分の授業がいきているか、というのは教員として
15. 3人のみなさん、それぞれのフェーズで自分の人生と作品を重ねた言葉が聞いて面白かった
16. ディスカッションを普通に組みめる生徒に驚きました。
17. すべての学び手に必ず学びの実りをもたらしてこられたことに敬意を表したい。(大学教員)
18. 授業者の方々が話していた内容の土台はすべて教科書でもよく使われる文章ですが、
19. 三人の方の授業すばらしかったです。小山先生がとてもおしあわせそうでしみじみうれしく

3-② 研究協議について

1. 榊井先生が進行役をなされ、植山先生、杉本先生がパネリストとしてお話をされるという大変
2. たくさんの先生方や卒業生の方々のご意見が聞いて、とても楽しかったです。
3. マイクを担当させていただきました。それぞれの生きた言葉に圧倒されました。
4. 1限目しか参加できず。最後まで参加したかったです。
5. すごく授業の捉え方とか物事への考え方のレベルが高い…！と思いました。
6. テキストの解釈、情報としてのことば、実生活とつながらない意味をどう考えるか、
7. 冒頭の校長先生の挨拶で、学校での学びがどう広がっていくのか、教員としては検証したい、
8. 国語教育についてあまり明るくないということもあり、ふだん史料と格闘している歴史学
9. 現役の生徒さんの生のお声が聞いてとても参考になりました。(高等学校教員)
10. 授業の舞台裏の話が聞いてよかったです。他の先生方の「思い」を聞くことができ、
11. 基本的に大人の集まりなので、濃い時間。濃い言葉のあつまりを感じました。
12. ありがとうございます。曲解はよいのかという話題については、その解釈のプロセスが
13. あまりにもレベルの高い協議なので聞くだけで十分勉強になりました。
14. 活発で個々人の経験に基づいたお考えをお聞かせいただきありがとうございます。
15. 大学教授から卒業性まで、多種多様な考え方を聞くことができ良かったです。
16. 皆様のご意見、ご発想たいへん感銘を受けました。ありがとうございます。(一般)

3-③ 企画全般について

1. 次回1月の企画に向けて、私たち研究会理事の人間もできることは何でもやりたい
2. 今日の研究協議では、小山先生や小山先生に縁のある皆様からの元気をもらいました。
3. 「0 (zero)」ベースの私案から関わらせていただき、小山先生の熱量の「風」に便乗
4. 個性の喪失、唯一無二になるにはどうしたらよいのか、という不安があるというのが
5. 本当に貴重な機会でした。もう二度と同じ体験は出来ないと思えるそんな素晴らしい企画
6. 今後、社会に出て、これほどまで丁寧に文章を読み、ことばと向き合う機会を持たない方が
7. 題材はとても難しく、ひとりで向き合うにはパワーがいるのかと思いますが、
8. 今宮高校独自の授業を実際に見てみる方ができてよかったです。
9. 恵まれた学習環境のなかで、積極的に学んでいる真面目な生徒さんだという印象
10. 元受講生が発表の中で言っていたように、人間として成長した後にもう一度同じ教材を
11. 単に「言葉にふれる」だけであれば簡単にできる時代になりましたが、
12. 正解がない問いを議論できるのは、とても貴重な経験です。

13. 小山先生 今日はありがとうございました。たくさん種をいただいて帰ります！！
14. 現役の今高生にはいつか私が教えたいです。友人とこの場で数年ぶりに再会しましたし、
15. 私も本、コトバだけがたのみの10代でした。
16. 今日はありがとうございました。こうして機会をいただけて私たちの「私」について考える
17. 貴重な時間が体験できて感謝の限りです。ありがとうございました。
18. どんどん成長していく姿が楽しみです。(大学教員)
19. 扱う教材(文献)について、古典作品バージョンもあるとよりおもしろく、
20. すばらしいご実践だと思います。ありがとうございました。たいへん勉強になりました。

1 「私達」は現在、こんなふうに考え、生きています
—卒業生による現役高校生への授業—

1 「私達」は現在、こんなふうに考え、生きています
—卒業生による現役高校生への授業—

1-① 授業動画

<p>「私達まつり」第1弾：授業動画</p>  <p>https://youtu.be/TjiMW_FUGYc</p>	<p>「私達まつり」第1弾：研究協議</p>  <p>https://youtu.be/7k1nL5NaRc8</p>
---	---

1-② 授業資料

No. 1

<p>74- スペース</p> <p>見ている人はいるよ 大学生活 楽しいよ!! 考えまわすよ!! 毛んほとこに 行くよ!!</p> <p>何とかなよ 不安も、出たりみたり大丈夫な感じもあるよ!</p> <p>何とかなよ 不安も、出たりみたり良い 感じてる不安は大体杞憂!!</p>	<p>☆森 不為美</p> <p>2011 今宮高校(中2退学)</p> <p>2012 2014 今宮高校(中3退学)</p> <p>2014 2018 香取女子大学(中3退学)</p> <p>2018 2021 大学院(合衆道研)</p> <p>2021 2021 大学院(合衆道研)</p> <p>2021 現在 合衆道研の専攻(中3退学)</p> <p>2021 現在 合衆道研の専攻(中3退学)</p> <p>2021 現在 合衆道研の専攻(中3退学)</p> <p>小山先生と授業のやり取り</p> <p>中高時代の苦手科目は英語</p> <p>小山先生と授業のやり取り</p> <p>意識的的努力</p> <p>「経験」「工夫」「期待」「行動」「個別性」</p>	<p>☆坂井田 暖</p> <p>2019 2022 今宮高校(軽音でした)</p> <p>2022 現在 香取女子大学</p> <p>将来はNIE(新生児集中治療室)の看護師を目指しています</p> <p>現役の頃から国語大好きでした。1年生の時は週7回小山先生の授業を受けました</p>	<p>☆藤本 佳穂</p> <p>2021 2024 今宮高校(軽音楽部)</p> <p>2024 現在 京都女子大学(法学部法学学科)</p> <p>将来は税理士を目指しています!</p> <p>今は定連の資格勉強中!</p> <p>私達の教師がからず所を国語科職員室の前のチャイルド小山先生に教わりました</p> <p>「自由を祝福すること(易しい)を先に比べて自由を擁護すること(困難)」「自由を行使すること(易しい)を先に困難」</p> <p>近代社会の自由と権利の両方を持つには自由と権利を両方持つ必要がある</p> <p>「自由を祝福すること(易しい)を先に比べて自由を擁護すること(困難)」「自由を行使すること(易しい)を先に困難」</p> <p>近代社会の自由と権利の両方を持つには自由と権利を両方持つ必要がある</p> <p>「自由を祝福すること(易しい)を先に比べて自由を擁護すること(困難)」「自由を行使すること(易しい)を先に困難」</p> <p>近代社会の自由と権利の両方を持つには自由と権利を両方持つ必要がある</p>
---	--	---	---

1-③ 卒業生の授業を受けて —現役高校生の声—

1. 年代が近い方が話してくださったこともあり、自分の生活に結びつけやすかったです。身近な言葉や分かりやすい言葉を用いて下さったことでよりわかりやすく聞くことができました。
2. 話し方がとても上手く聞きやすかったです。一学期に学んだ内容をまた聞くことができ、再度理解をし直す事ができました。
3. 自分たちが学んだこと以上のことを知れたので良い発表だと思いました。大人数の中での発表でも堂々としていて素晴らしいと思いました。
4. 今回私たち祭りに参加して思ったことは、一人一人がなにか目標や、目的にむかって努力していたり、なぜその目標や目的になった経緯なども違っていたり、その境遇とかも違っていたりしたことを知ることができた。歳の近い人たちの発表だったので、共感できたり、身近に感じやすかった。
5. 卒業生の方々にお話を伺って、自分たちが授業で実際にやった内容だったけど私たちとはまた違った立場からお話されていて、そんな考え方もあるんだと感ずることが沢山あり面白かったです。とても分かりやすく説明してくださって自分も改めてタメになったし自分もいくつかの立場になって考えていけるようになりたいなと感じました。
6. 私たちが授業で理解していたことよりも詳しく知ることができる授業をしてくださって、レベルが高く説明や話し方がすごくはっきりとしていて上手だなと思いました。また、自分の経験に文章を当てはめて話していたのが印象的で、私たちの授業がこれからの人生に生きているんだなと思いました。
7. 今までの授業でわからなかったことが今回の私たち祭りでしっかりと分かった。授業の内容だけでなく、自分たちへのこれからの人生の生き方についても教えてくれたので良かった。
8. 今まで学んだ教材でこんなにも自らの生活に当てはめることができるなんて凄いなと思いました。3人とも興味深い話ばかりでした。特に藤本さんのお話は大学生という近い未来なこともあり想像しやすく大学であるならば、自分はどのような行動をする(したい)のかを考えて授業を受けることができました。
9. 今回の授業で私たちの先輩の講義を聞いて本当にスピーチが上手いなと思いました。僕は誰かの前で話す緊張で話そうとしたことが飛んでしまうことがあるので、本当に流石だなと尊敬しました。先輩のスピーチから学ぶことも多く、本当に有意義な時間になりました。
10. 来られた発表された3人の方から僕は人生に直接繋がるような話をたくさん聞けました。例えば難しい判断に迷った時は難しい方を選択するといったことや自分だけのふるさとを生かして自分にしかできないことをすると言うことを学べたことがとてもよかったし心の奥に残りました。

11. 自分の中でテキストをきちんと深く読めていたと勝手に思い込んでいましたが、卒業生の方々の授業を受けて、もっと深く掘り下げ、今後将来にきちんと活かすことができるということが分かりました。ただテキストをしっかり読み込んで終わるのではなく、私たちの今立っている場所という単元の名前から、今の私たちのあるべき場所と今後のあり方を考えて、自分の将来に繋げながら本文を読み取ろうと思います。

12. これまでやってきた教材は内容は違っても、繋がっていることがわかりました。例えば文学のふるさとの「ふるさと」と「大人の仕事」と「である」ことと「する」ことの「である」と「する」は意味的にはおなじところなんです。卒業したら看護専門学校に入学するので坂井田さんのお話が特に興味深かったです。今回の授業を聞いて、入学してからはなぜ看護師になりたいと思ったか、またその夢を叶えるためにはどのようなことをしないといけないかを忘れずに一生懸命頑張りたいと思いました。入学して「である」の状態では止まるのではなく自分の出来ることをしっかりと「する」ことで素敵な看護師になれるように頑張ります。

13. これまで私たちも授業をした教材について、3人の方から改めて授業を受けて新しく感じたこともありました。文学のふるさとで話されていた坂井田さんの話自分の実体験 ふるさとから、そのことを生かして看護師になる 大人の仕事、私も看護師になるのが将来の夢なのでとても印象に残りました。

14. ふるさとは生まれた場所や境遇という今変えようと思っても変えることができないもの。大人の仕事はそのふるさとを持つ自分だからできることだと私は考えた。

15. 自分たちが授業した内容をより詳しく、大学生活など自分の生き立ちなどに沿って話をされていてわかりやすかったです。授業でした時よりももっと身近に感じる事ができて内容が入ってきやすかったです。話し方やスピーチの姿勢などは参考にしたいなと思いました。

16. 今まで学んできた教材をまた、纏めとして学び直せたので何を伝えたいのか、何が大切であるのかを再度理解することが出来てとても良かったです。話してくださった3人の方の伝えたいことが伝わって、本文が示すことをしっかり考えることができ少し考え方が変わりました。何かをやるにしてもそれに対して目的を持つことが大事だと再度学んだので、今は受験合格するために勉強をしていますが、大学生になった時何となく日々を過ごすのではなく目的をきちんと持って、挑戦とかしていきたいなと思いました。ふるさとの教材で思ったのが、自分のふるさと、変えることが難しい性格や変えることができない生まれの場所を糧として自分が出来ることを仕事にしていけたらなと感じました。授業を聞いてとても自分の為になりました。楽しかったです。ありがとうございました

17. 沢山の偉い人達が来ていてとても緊張した。小山先生の凄さに少し気づいた。また、班の発表もとても完成度が高くて関心した。もっと知的になりたいと強く思った。

18. 自分が想像していたものよりも祭りって感じでまさか法被を着ているとは思わなかったです(笑)

自分の見識が深まるような講演内容で今の今宮を生きていることを実感しました。25周年記念というこの節目にこの祭りに参加することができてとても良かったです。

19. 同じ授業を受けた今までの卒業生だからこそ身近に感じ、問いや考えを受けたり伝えたりして関わることができてより自分の考えが深まったり、未来について考えるいい機会になったと感じました。

20. それぞれの人が自分の実体験とともに説明していて、忘れかけていた内容でもすぐに理解することが出来た。全ての話をも自分事として考えることが出来た。大切な語句や文章を抜き取ってまとめて、色々な話に繋げて説明していてすごく分かりやすかった。短時間ではあったが、そうとは思えないほどの満足感があった。

21. 藤本さんの事を1歳しか違わないのにこんな大勢の前で普通に授業していて凄いなあと思っていたが1時間目はもっと緊張していて2時間目で速攻アジャストしてあの授業をしていたと聞いてより驚いた。「プディングの味は食べてみなければわからない」という例えが、状況としては分かるがことわざ？格言？としての意味が分からないままだったのでプリントの説明で理解出来たのがとてもありがたかった。

22. 3人の話を聞いて、3作品についての理解がより深まりました。そして大学生になってからも目標を持つことを大切にしたいと思いました。漠然と毎日過ごすのではなく、考えるということを怠らずに、毎日過ごしていきたいと感じました。特に文学のふるさとについての話が印章に残っています。ふるさととは自分では変えられないもので、それを踏まえた上で、自分にしかできないことをするのが大人の仕事だと考えが深まりました。だけど自分にしかできないことというのはとても難しいと思います。なのでそれを大学生のうちに見つけるのをひとつの目標にしたいです。そして3人の話を聞いて目標を持つということは3作品に共通していることでもあり、何不自由なく生活出来る現代において目標を持つことはもっと大切なことであるとも感じました。まずは大きい目標を持って、次にその目標を叶えるために逆算的に小さい目標を持つことを忘れずに生活していきたいです。

23. 藤本さんは「である」と「する」ことに書いてある、「自由を祝福することは易しい。それに比べて自由を擁護することは困難である。しかし自由を擁護することに比べて、自由を市民が日々行使することはさらに困難である。」という文を、自分の大学生活に当てはめて例とし、大学生「である」ために、努力「する」ことで本当に大学生「である」といえるというように「である」になるためには「する」をしないといけないという解説をしてくれた。坂井田さんは、文学にふるさとにおける肝の部分である、「ふるさと」と「大人の仕事」を、坂井田さん自身が未熟児であることを「ふるさと」、未熟児の気持ちがあるからこそできるNICUが「大人の仕事」だといって、自分のふるさとを踏まえた上で自分が出来る大人の仕事をしようとして教えてくれて、自分のふるさとはなんだろう、自分だからこそできることってあるのかな。と、自分のことを見つめ直す良い機会になった。森さんは、働いている社会人の立場から、僕たちは、日々何かを頑張っているから、安楽へと一直線にいつているわけではない。見ている人は見ているから辛くても毎日頑張ろうと、受験生を応援してくれる話をしてくれた。今回人生の先輩3人から話をさせていただいて、今まで習ってきた文章と、自分とを結びつけて、これからのことを一生懸命

考え、日々頑張っていこうと思えた。

24. 今回の私たち祭りで学ぶことがたくさんありました。まず藤本さんの話では、一個上の先輩ということもあり親近感が非常にわきました。そこで話に出てきた目標や目的を持って取り組むことの大切さということが非常に印象に残りました。今までも周りの大人の人たちから頑張れとか必死にきなさいなど小さい頃から言われてきましたが、目標や目的がなければ頑張ることもできないし、必死にすることもできないことが改めてわかりました。しかし、自分にはまだ具体的な夢がないのでどうしようかここ最近思っていたのですが、そこで坂井田さんの話がとても参考になりました。自分にしかできないことを仕事にするということも新たな選択肢として増えました。そして、森さんの話も自分の気づきと重なる部分もたくさんあり素晴らしいお話ばかりでした。これらの話は僕の勉強を頑張るモチベーションになりましたし、非常にいいものでした。僕はまだ夢は決まっていますが、やりたいことの選択肢を広げるために勉強するという目標ができました。ですからこの辛いこともたくさんあるだろうし逃げたくなることもあるだろうけど、今回の3人の話を通じて頑張ることの大切さを改めて学んだので、受験のみならず今後の人生にも活かしていきたいです。

25. 3人の話を聞いていて1番心に残ったのは森木乃美さんの話でした。森さん自身も辛いことがあった時に「見てる人は見てるよ」という言葉に救われたと仰っていて、それを聞いて私もそう考えればいいのかと腑に落ちた気がしました。また坂井田さんのお話で自分が未熟児で生まれたから自分と同じこの親を支えられるので看護師になりたいと聞いてとても素晴らしい事だなと思ったのと同時に私自身のふるさとと大人の仕事についてよく考えられた良い機会でした。

26. 本文の内容をわかりやすく説明しつつも、自分たちが調べて発表した時とは全く違った視点からも説明していて、さすがだと思った。ただ本文の内容を解説するというよりは、自身の体験したことやこれまでに結びつけていたので、内容の理解だけでなく生きていく上でタメになるようなことを聞くこともできてとても良かった。

27. 坂井田さんも森さんも藤本さんも「であることととすること」や「文学のふるさと」、「安楽への全体主義」などの教材を、自分の今の状態や「私達が立っている場所」を選択したからこその学びなども含めて教壇に立っていてすごいと思った。これらの教材はこれまで勉強していたから内容もある程度覚えていたけど、年齢が違う人の「何年か経ってから改めてこう考える」という意見とともに改めて考えてみると、新たな発見があったり内容を深くまた考えることが出来たりしてとても良い経験となった。

28. 3人の私達の履修者の方のお話を聞いて、とても面白かったです。まず1人目の方のお話を聞いて、去年今宮高校を卒業されたということで、自分たちと歳が近いこともあり、話の内容が分かりやすかったです。「である」と「する」について話を聞きましたが、何事も目標を持ってから行動することが大切だと言うことを教えてもらいました。2人目の方の話では、自分の経験からふるさとの話を聞きました。そのあとの研究協議でも言っていましたが、自分に経験がないことは理解しづらく、経験があるような話は理解しやすいことが印象に残りました。3人目の方の話は、先生をしていらっしゃるということで分

かりやすく、面白かったです。当時のメモを見せてもらったりして、変わらない題材を長くやり続けることで、世代は変われど同じ題材を勉強することがとても面白く、世代を超えて繋がっていると思いました。今回私達祭りでこのような機会を設けていただいて、とても面白かったし、また同じようなことがあればもう一度参加したいと思います。

29. 私達の授業で文章を読んだだけでは、あくまで「聞いた話」、そして「精読しただけの文章」という要素をなくせず、多少の「他人事感」は捨てきれないため、自分の生活や実情と親密に結びつけて自分への影響を感じとることは、なかなか難しい状況となってしまっていました。しかし、今回先輩方のお話をお聞きして、かつて何十年も前に著された文章でありながら、現代社会に鋭いメスを入れ、現在の社会情勢を的確に指摘している、また私の将来、それに限らず現在に活用できる情報が、私達の授業で過去に「習った文章」には含まれていることを感じました。今回は今まで「習った文章」を別視点から学ぶことができ、非常に大きな学びを得ることができました。この度は貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

30. 言葉の意味や背景、作品の想いなどを班のメンバーと話し合いながら「どう伝えるのか？」ということを試行錯誤しながら考えている姿を見ることができました！1つの作品（1つの段落）を深く追求することの難しさとその中で成長は、とても大きく感じました。その深く追求させるきっかけが小山先生の質問や指摘する部分にあり、自分自身の授業の中で少しでも取り入れる努力していきたいと感じました。

31. 藤本さんの話で大学に行ってただ講義を受けて帰るだけではダメで、目指す目標を定めてそのために自ら積極的に学びに向き合うということが大切であると分かった。坂井田さんの話では自分の経験を元に「ふるさと」と「大人の仕事」という言葉を具体的に説明されていて今までで一番すんときた説明だった。過去の変わらない出来事があったからそれを活かして今目指す仕事に繋がっていてすごいと感じた。森さんは英語が苦手だったのになぜ英語教師になれたのか、私も英語が苦手だが海外旅行に行きたいのでとても気になる。不快に対して「安楽」でいずに、工夫や努力で立ち向かったように思えた。卒業生の方々は私達の授業で学んだことを実際に実感し、活用できているんだなと感心した。私はまだ自分の生活に置き換えて考えたことはなかったけれど今後考えたり、実際に行動したりしようと思った。

32. いい意味で自己中心的に生きることが大切です。まずは自分を何よりも大切に！！

33. 他の授業ではなかなか経験できない企画なのでとてもいい刺激になった。

34. どういう社会に生きているのかとかすべきこととか社会はどのように変化し今の私達があるのかとか、あまり考える機会は無いかとても重要で本来は考えながら生きなければいけない事や課題について触れる機会になる授業でした。後輩に発表がかなり時間を取ったりするのでやめとこうみたいに思う人がいるかもしれないし、私も少し思っていたけど谷名先生に勧められて授業とって良かったなと思いました。

35. 生徒たちのディスカッションから発表、「私達まつり」、研究協議まで見学させていただきたくさんの刺激をいただきました！第2弾も楽しみにしています！！

研究協議について

1. 僕はこれまでの私たちの学習での教材をまだ完全に理解できていないところがあって、気がかりでこのまま終わって良いのかと思っていたところでのこのような機会でもこれまでのものを詳しく説明していただいととてもすっきりしたし良い学びにしていきたいと思います。

2. 今回選ばれた2人が本当にすごかったです。難しい言葉だらけで意味を曖昧に捉えることしかできない自分に対して、2人はしっかり質問に答えていました。文章を読み取ってしっかり理解し、さらに自分の言葉で即座に返答できていた2人を本当に尊敬します。研究協議自体は聞き取るだけで精一杯でしたが、ところどころ少しだけ理解できることを汲み取って自分で表現できるまでのレベルに達したいです。まだ現時点の私にはかなり難しいことですが、少しずつ「大人の語彙力」にも慣れていきたいです。

3. 授業をしてくださった3人各々自分の経験を絡めて分かりやすく、かつみんなに考えさせるような発表していてすごいなと思いました。

4. 杉本先生がおっしゃっていた「AIでは、人間のもやもやした気持ちは絶対に表現できない。人間はそれのもやもやした部分をどう言葉として表現するかが大切（間違っていたらすみません）」というお話が印象に残りました。言葉の大切さやその言葉の力が人と人をつなぐ力になっていると強く感じました。「私たちの立っている場所」の授業では、まさに言葉の深さを体感する！ことができていますはずであり、生徒たちの言葉の力が育つ場なのだと思います。

④ 現役高校生への授業を終えて —授業者3人のふりかえり—

1. 森木乃美さん（四天王寺高等学校・中学校教諭 総合学科16期）

現役生への授業を終えて

この度、「私たちが立っている場所」受講者として、また当日の授業実施者として、「私たち」の一部になれたことをとても嬉しく思っています。参加した中で、「ことば」の広がりの可能性を強く感じました。ことばで人と繋がり、それぞれの場でそれぞれの方法で、ことばに勇気付けられながらも生きているのだなと感じました。大袈裟に思えますが、研究協議の参加者の方々のことばを聞き、特に強く心に残った感覚です。私のことばもまた誰かの、特に現受講者である高校生の何かに繋がれば嬉しいです。

小山先生からお話をいただき、今宮高校の図書室に久しぶりに足を踏み入れた日から、まんまと策にかかり、この祭に巻き込まれてしまっていたわけですが、まずここで二人の素晴らしい同志と出会うことができました。一緒に授業をした坂井田さん、藤本さん。お二人とは、今回のお話がなければ出会うことさえなかったのではないかと思います。授業実施にあたり、同じ授業を受け、同じ教材を読んだという接点から、「小山先生ってさ」「学生時代どんなだった」といった高校時代の思い出話に加え、「この教材って」

「この授業って」「今の高校生って」「今の時世って」と本当に色んな話をしました。二人の紡ぐ「ことば」に、納得したり感心したり、勇気付けられたり、教材に関しての新たな発見もさせてくれたり忙しい日々

ながら、本当に楽しく充実した時間でした。

当日の授業では、今の現役生にとっての私たちにしてほしい授業はどんなものか、と悩み考え実施した授業を大変素直に真摯に受け止めて参加してくれ、とても嬉しかったです。悩みながらも自分の「ことば」を共有してくれた姿には、現役英語教員である私も、これからもしっかり研究して、日々研鑽を積み生徒に臨んでいきたいと再度考えさせられました。加えて、この祭を通して大学時代の授業で感銘を受けた杉本舞先生、高校時代にもお世話になった現今宮高校教頭先生である大塚先生をはじめ多くの方々とお会いして、お話する機会を持てたこと、これもまた「ことば」の繋いでくれた可能性だと思います。このような素晴らしい機会をいただけたこと、心より感謝致します。私自身もここからまた to be continued. 自分の仕事にも真摯に向かい合って、精進し続けたいと思います。ありがとうございました。

2. 坂井田暖さん（大阪医療センター附属看護学校3年 総合学科24期）

「現役生への授業を終えて」

私たちまつりの実行委員として活動し、現役生への授業を終えた今、私はことばの持つ力の素晴らしさを改めて感じています。初めて小山先生から、実行委員として参加のお話を受けたときは、どう進行していくのか全くわからず、手探りの状態でした。そこから実行委員のメンバーが徐々に増えていき、こうして無事に私たちまつりを終えることができました。

私たちは、実行委員と現役生という、世代も環境も違う者同士ですが、共通のテキストということばを通じて、考えを共有することができました。年齢や経験、バックグラウンドもそれぞれ違う私たちが、それぞれの視点でテキストを解釈して、意見を交わしていったことは、まさにことばの力によるものであったと思っています。

各々が自分のことばで考えて、自分のことばで伝えることで、私自身も新たな気づきを得られた場面がありました。自分の考えを再確認したり、より深めたりすることができたと思っています。また、その過程は、自分自身のことをもう一度見つめ直すことにもつながりました。このようにことばを通じて自分自身のことを見つめ直すことができたのは、この私たちまつりがあったからで、非常に貴重な時間であったと思います。

共通のテキストを読んでいても、そこから生まれてくることばというのは、その人個人の経験や知識によって全く違っていて、だからこそことばは面白いのだなど、小山先生の授業を受けていた時に思ったことを、もう一度感じました。一人でテキストを読んだり、考えたりするだけでも、もちろんことばは生み出されていきますが、そのことばを人と共有するということが、自分の考えを広げ、より深められるということに、改めて気づくことができました。

今回の、私たちまつりで現役生へ授業を行うという経験を通して、私はことばの力がどれほど重要であるかを改めて感じました。個々のことばが集まり、交わることで、それぞれの中に新たな考えが少し広がっていったのではないかと思います。今後もことばの力を大切にして、より多くの人と関わっていきたいと思います。

3. 藤本藍里さん（京都女子大学法学部法学科1年生 総合学科26期）

授業をするというのは中々難しいものだなと思いました。時間も気にしないといけないし受講者の反応も気になるので結構プレッシャーがありました。流れというか雰囲気というか、そういうのはやはり

その場じゃないと分からないもので授業の進め方を決めても全くその通りは本当に難しいことなんだと思いました。でも受講者の皆さんもとても積極的に参加してくれて予め決めていた授業の方針通りには進められたと思うし自分の伝えたいことは十分とまではいかないけど伝えられたのかなと思います。自分は全然まだまだ未熟で拙い話の進め方をしてしまったけれど他の人の支えがあって完成して良い授業にできたなと思いました。研究協議は、すごく授業の捉え方とか物事への考え方のレベルが高い...！と思いました。自分じゃそこまで考えられなかった、とかそういう考えもあるのか、とか新しい視点が得られました。国語だけではなく他の物事にも通じる本質的な話題がありそこで出てきた数々の意見がとても参考になるなと思いました。

今回は本当に貴重な機会でした。もう二度と同じ体験は出来ないと思えるそんな素晴らしい企画になったと思います。現役高校生にはまだまだ焦らないで大丈夫、今大変な時期だけどそれを乗り越えたら楽しいことがいっぱいあるということを伝えて欲しいです。

2 「私達まつり」第1弾、研究協議はこう行われた

大阪府立今宮高校・国語科設定科目「私達が立っている場所」開講25周年記念事業
「私達まつり」研究協議

日時 2024年11月15日 15:20～16:50
場所 大阪府立今宮高校 会議室

■参加者

植山俊宏先生（京都教育大学特定教授 全国大学国語教育学会理事長）

（「私達が立っている場所」を25年にわたって見守る。）

杉本舞先生（関西大学社会学部教授・科学技術史）

（高校3年間小山先生が担任。本日の授業者、森木乃美さんが奈良女子大学で指導を受けたというつながりも。）

榊井英人先生（京都大学・関西大学非常勤講師）

（附属天王寺で同僚。小山先生とは30年以上のつきあい。）

小山秀樹先生（大阪府立今宮高校教諭）

（「私達まつり」企画を構想。）

授業者

森木乃美さん（四天王寺高等学校・中学校教諭 総合学科16期）

坂井田暖さん（大阪医療センター附属看護学校3年 総合学科24期）

藤本藍里さん（京都女子大学法学部法学科1年生 総合学科26期）

授業を受けた3年生の代表 石川優花さん、井上舞香さん

本日ご参加の皆様約50人（教職員30人、卒業生10人、一般10人）

中須賀先生（今宮高校校長）による開催挨拶、3人の授業者への労いや小山先生との出会いについてのお話につき、小山先生から研究協議登壇者紹介。榊井英人先生の進行により、90分にわたる濃密な論議が繰り広げられました。

（以下、敬称略）

◆榊井

本日の授業は、卒業生3人が担当するという特殊なスタイルでした。研究協議では国語という枠を超え、いろんな立場から話し合いたいと思います。授業の感想、小山先生への質問など、気楽にご発言ください。

◆I (0 高校)

教員になってすぐの頃、「私達が立っている場所」の授業を拝見した時は圧倒されました。前で生徒が授業をして、小山先生が後ろからバシバシ突っ込んでいく。あまりの衝撃にその時は受け入れられなかったのですが、それを噛み砕きながら、今は私も後ろでバシバシ突っ込む授業をやってみたりしています。

今日の授業では、文章を読ませる時に、それぞれの実生活や人生とのつながりが大事なのだと改めて認識しました。私は常に「これって君らのこういうとことと近くない？」という話をするようにしています。今日は「今の高校生の実生活と骨のある文章のここがつながってるよね」という投げかけが確認でき、さらに同じ文章を読んだ先輩たちとのつながりが強く感じられ、そういう点でも面白い試みだなと思いました。

最近、目に見えて効果が分かるものばかりが評価される傾向にあります。見えないものを計ることへの軽視を僕は憂慮しているのですが、今日思ったのは、文章を読むことにどういう意味があるかというのは、現時点では計れない。それが後になって分かってくるのかなと。こんな効果があるよと、今は言えなくても、文章を読み込む意味はあるのだろうと改めて思いました。

◆小山

長く同じ文章を読むということでは、例えば、川端康成の掌小説「バッタと鈴虫」や「歴史としての科学」(村上陽一郎)など、他の教材を試してみたこともあります。高校生の今につながる今日の3つの教材は外せないというところに立ち戻ってきました。卒業生のアンケート集の中には、よくそこまで考えているなど驚かされることばがあるんです。それが、高校時代にはおよそそれを書くような授業態度や取り組みにはほど遠かった生徒なんですよ。だから、ばら撒きでいいと思います。種をばら撒いといたら、いつか自分で咲かしてくれるということが、かなりの確率で起きます。その時々状況に負けないで、撒き続けることが必要なんじゃないかなと思っています。

◆榊井

なるほど、種を蒔いておけばよいということでしょうか。

◆杉本

私は1996~8年、大教大附属天王寺校舎の小山先生の授業で今日の教材、「であることとすること」や「文学のふるさと」を学び、他に「こころ」を一年間読んだりもしました。それから28年、小山先生にお聞きしたくて温めてきたことがあります。それは、テキストの読みということはどう考えておられるのか、ということです。1997年、2年B組の現代文の授業で「こころ」を読んでいたんです。班ごとに担当して解釈を発表していくという授業でしたが、中には「えっ、そんな読みができる？」みたいな発表もありました。当時、「新世紀エヴァンゲリオン」というアニメが流行っていて、そのアニメに引き付けたある意味ペナンティックな感じの解釈の発表が続いたことがありました。当時、私は、あまりにも作者の意図を曲解しすぎじゃないのかなという印象を抱いたのですが、先生はその場を流して終わり、そのことが心の底にずっと引っかかっていたのです。というのは、大学生に輪読させる時、私はできるだけ身勝手な読みはしないようにという考えを伝えます。そしたら学生は、じゃあ正解はあるんですかと言う。小山先生は、高校生が高校生なりに解釈したテキストの読みをどういうふうに捉えてこられたのでしょうか。

大学1年生を指導していると、実生活とつながりにくい抽象的、理論的な内容を、理解の外に追いやろうという学生が少なからずいます。哲学や思想の難しい内容は、実生活とはかけ離れていて理解しづらい時もあるわけです。そういうような内容をどう取り扱っていけばよいのか。小山先生はどのように考えてこられたのか、私の28年のためにお答えをお願いいたします。(笑)

◆榊井

1つ目はテキスト解釈の問題。つまり解釈を生徒に任せた時に生じる問題。そしてもう1つは実生活とのつながり。「そんな俺関係あらへんし」みたいになる問題。この2つのテーマについてまずフロアの方にお聞きします。

◆M (K 高校)

杉本先生のご発言に関連して、自由な読みということについてお話ししたいと思います。私も2年生で「こころ」を取り上げ、様々な語句を自分たちで定義づけようという授業を行いました。グループワークで「こころ」を読んで、小山先生のように後ろでバシバシというのはないのですが、ぐるぐる回りながら生徒に論議させました。その時に考えていたのは、自分の感想や思いを持つことは自由だということ。なぜかというと、それぞれのバックグラウンドは違うから。「個人の思いを抱くのは自由である。それを共有するのが、小説を読む価値なんじゃないかな」と話しました。自分のこれまでの人生と関連づけて先生をどう感じるか、Kをどう感じるかは自由だけれど、書いてあることを大事にしよう。その文章の意味を作っているのはことばだから、ことばの意味を大事にしよう。だから辞書を引かせて、それを元に「こころ」の中でことばがどういう意味で用いられているのかに注目して授業をしました。自由な読みの裏側で、語彙力がとても大事だと思います。今、授業をしていて心配に思うのは、語彙力の不足、ことばの意味を知らないということです。簡単なことばも出てこないとか、漢字を書けないとか、そういったことは、スマホが生徒たちの情報源の主流になってきたことから起こっているのかなと実感しています。とにかくことばを大事にしよう。そういう姿勢を持っていけば、自由な解釈があっても良いのではと。「こころ」のことば、例えば恋だったり、手紙だったり、いろんなことばをまず辞書で引かして、「こころ」ではどう使われているかを考えさせた時、恋は利己心につながる、それは自分本位な気持ちが恋にはあるからだといった意見が出てきました。そういう発言に触れた時、辞書のことばと自分ことばが生きた意味としてつながったんだなと実感しました。辞書の決められたある一定のコードとしての意味と、その文章の中で使われる意味が、どこに共通点があって、どこに差異があるのかを考えることが、後々の個人の読書にもつながっていくのではないのでしょうか。

◆A(総合学科24期生)

拡大解釈をする側の意見を言いたいと思います。僕は在学時、幾度も自分のセクシャルについての発表をしました。常に本を使わずに、自分の解釈を突き詰めていって、それを発表するということをしたんですね。それがいつも高い評価をいただいて。でも、皆さんの言うように、もともとあることばからどんどん離れていくみたいな、そういう感覚があって、高い評価をいただいても、君の世界観はすごいね、芸術だねと言われているような感じで、理解はされても認められていない感がありました。国語教師を目指そうとしている身として、自分の広がり続ける世界観をいかに抽象化してみんなに分かりやすいメジ

ャーな言葉で抽象化するか。そして、「君達はどう生きるか」の発表の時に、小山先生が大事だとおっしゃっていた「帰り道をつくること」、つまり「抽象化したところからもう一度自分に戻り、足元を見つめること」が自分の課題だなど。そう思って日々塾で勉強を教えたりしています。

◆M（理科教員・総合学科5期生）

国語に限らずすべての教科の目的は、正解を教えることじゃない。僕は、授業をすることの目的は、小山先生がおっしゃった「タネを蒔くこと」だと思います。今は実を結ぶものがなくても、将来的に何か役に立つことがあるのではないかと。僕は今、勉強の優先度が低い、生きていくのが必死な子どもたちの学校に勤務しています。そこでは授業が実生活で役に立つわけではなく、働いている子らに話を聞いても理科の知識は全く役に立ってはいない。しかし、卒業生が遊びに来て話す中で、授業の内容は一切覚えていないけども、僕が言ったちょっとしたことを覚えていたりするんですよ。あっ、これが僕が教師をやっている理由なんやなど。かつて、僕も小山先生に、鋭いとか、浅いとか、ズバッと言われて傷ついたことがありましたが、その放課後に、浅いと言われたことについて考え直す時間があって、それが大事だった。小山先生がいっぱい話してくれたことは僕の心に残っていて、そういうのを大事にしたいなと思うのです。今教えている生物の知識がどれくらい役に立つかは分かれへんけれども、将来ちょっとでも何か芽吹くものがあればいいと思います。今日は、教え子たちが授業をする姿を見られて、小山先生は本当に幸せやなと思いました。

◆柘井

「私達が立っている場所」がどんなふうテキストに向き合って、どんなプロセスを経てきたのか、かなり見えてきたかと思います。では、テキスト解釈の問題、実生活や人生との結びつきの問題をどうしてきたかというあたり、小山さんからお願いします。

◆小山

杉本先生からご指摘のあった場面を、実は私、覚えていないんです。ただ、その当時も、いいと思ってやり過ごしていることはないと思います。そして今は、「読み取ることの中に、自分たちの考えの可能性が生まれてくるんや」というつもりで、読み取ることに尽力しています。松浦先生から「考えることと読み取ることを仕分けしながら」というお話がありましたが、そういうことも頭に入れながらやろうとしているつもりです。だから当時のことを思うと、杉本さんに迷惑かけたなあと。どんな小さな場面でも一言発言を入れとかなあかんと、そういうことを感じます。過去に戻れるものならそういうふうに対応したいと思いました。

生活との結びつきということでは、「個人ではなく複数になれるように。ことばを共有することによって」ということになります。それが本当のところ、どういうふうにして明かされていくのかというと、私の場合は、年々、生活の中で生きる、共有して、共同で生きるというところに帰されていって、今自分たちは生きているんだ、あるいは力を得ているんだ、あるいは前向きな気持ちを温存させていく、創り出していくんだ、というような個別のベタベタした前向きな気持ちの創造ですよね。そういうのを目標にしているような気がします。

そういうことに帰されていくというところに、授業の目標は設定されざるを得ない。そう思いながら日々

やっているところです。経験が追いつかないというのは、常に起きることで、それでも人は、考えの枠を超えた部分を知ったときにもものすごく驚いたり、現実が解けた気持ちになったりして、それを説明できるだけでも楽しいことです。それは現代社会に生きるということまでつながらなくても、小さな喜びをたくさん顕在させて、その顕在させていくものを幾らかつなげて、A君が言ってくれましたが、それは自分がどの場所にしようが、そして何を考えていようが、どういう状態にあろうが、思想・考えとしてはどこまでも行くことができる。だけでも帰り道を考えなければならない。考えたことがどこに辿り着くのかというと、やはり自分の足元です。そこに戻ってくる。そのプロセスが大事さを明かしていると言いますか、本物ぶりを証明しているということになるのでしょうか。

◆K（大阪公安局・総合学科14期生）

私は大阪公安局に勤務しております、今年の3月までは北海道大学の水産学部で学生の世話をしていました。2011年～12年、「私達が立っている場所」を受講し、その当時、小山先生が私達が帰っていく場所をやりたいとおっしゃっていたのが今日のことだったのかなと思いました。

私が在学していた頃に比べると、高校生を取り巻く環境は大きく変化したと思います。例えば、生成AIができ、チャットGPTといったサービスに高校生もアクセスでき、それを使える環境になった。さらには、賢く見える話し方とか、ファスト教養というのがもてはやされるような時代になりました。また最近では、争いごとに勝つため、自身が優位に立つため、そういったことに言葉が使われることが多い。いわゆる論破というものが流行り出している。そういうことに危機感を持っておりまして、現在の高校の授業の中でも、それを回避しないといけない状況になっているのではないかなと。25年間、「私達が立っている場所」の授業をされていて、課題の取り組み方や受講者の反応などがどのように変容してきたかを、小山先生にうかがいたいと思います。

◆小山

はい。経緯について少しお話します。私が1999年にこの学校に赴任した当時は、学校設定科目を意欲的につくっていきこうという空気もあり、自分の国語の単元を授業名にできる絶好のチャンスと考えました。その頃と今とでは、生徒の様子は変わってきていると思います。人間関係の作り方も変わってきている。班の作り方、班の中のやり取りの仕方とか。でも、高校生の考える、若者の考えることに大きな違いはないと思います。一方で私のアプローチの仕方が、今までだったら「浅い」の一言で済ませたことを、たぶん今では「浅い」の一言で切っていることはない。それぞれの時代にその時代の高校生の姿があるので、自分はそれに十分ついていくべきと言いますか、変化しないといけないと思うのですが、それができたりできなかったりで現在に至るというようなところですか。指導の仕方については、毎日苦勞が尽きませんが、でもそれが楽しいです。

◆植山

いろんなお話をたいへん楽しくうかがいました。この議論の中では「役に立つ」「正解」とかいうのが、ある意味ヒーロー役になっていますが、本当にそうなのでしょうか。みんな自分の答えを探し続けていますよね。答えは要らないと思っている人はいない。そういう意味では「ずっと自分の答えを探し求めているという正解」があるのだろうと。特に思ったのは、それが意識的であるということです。小山先生がお

っしゃるには失敗してもいいやんと。失敗を意識的にやるんかなと。覚悟しながら失敗して、そこからまた成功という正解を求めていこうとするあり方、姿勢を身に付けることが、大きな学びだろうと思いつつながら見せていただきました。

私の恩師で、小山先生の恩師でもある野地潤家先生が、「ただの真面目な人はダメです。アンビションがない人はダメです」と。アンビション、つまり大望を追い求めながら生きていくことが大事なのだとおっしゃってくださいました。自分の大望を掲げ、もっと大きくしていくという役に立て方というのがあるのではないかと考えるわけです。

◆杉本

この機会に、専門の立場から申しますと、生成AIの時代になり、いろんなものがAIに代替されると、特に若い人は思っています。高校生も思っているのではないのでしょうか。チャットGPTに投げかけたらそれなりの答えが返ってきますが、最後まで絶対に置き換えができないものは何かと申しますと、自分の頭の中でモヤモヤモヤと考えていることを言語化することです。それだけは、チャットGPTに「私の考えていることをことばにしてください」と投げかけても絶対にしてくれない。そのチャンネルはないので、自分なりにやるしかないのです。自分の考えを誤らずことばにしていくためには、必ずことばに向き合っていくたくさん経験が必要だと思います。本日の研究授業を拝見して、今宮高校の卒業生の方、現役の生徒さんは、まさしく自分のモヤモヤと考えていることをことばにしていくという、これから最も求められることばの力を育てておられると思いました。自信を持って今後ともぜひ取り組んでいただきたいと思います。

◆梶井

本質的な話題がたくさん出て、有意義な協議ができました。いろんな現場でいろんな形で、今日の授業を参考にしてこれから広がっていくことができるんじゃないかと思いました。協議はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

3 「私達まつり」第1弾、参加者のことば

3-① 授業について

1. 先輩たちと生徒が同じ文章で繋がっているということが、この授業の肝だと感じました。授業をした時には分からなかったテキストが、先輩たちの言葉を通して、腑に落ちたり落ちなかったり…また新たな考えに繋がったり。単に文章を読むということではなく、まさに私達が立っている場所はどこなのかを確認する授業であったと感じました。

私はここ数年深い学びとは何かをいつも考えながら授業をしています。小山先生の授業は深い学びを実現する一つのスタイルなのではないかと思います。(教職員)

2. 高校生の生徒たちが、自分たちで読み解いた作品を、卒業生の同じ教材で学んだ先輩たちが、自分たちの卒業後の経験を元に解釈を伝えてくれるというのは、高校生たちにとって素晴らしい体験だったのではと思いました。自分たちなりに頭をフル回転させて考えた解釈に、年の近い先輩たちからの経験をもとにした解釈が聞けるというのは、卒業を目前に控え、将来に希望や不安をもつ生徒たちにとって、人生のエールとして受け取れたのではないかなと思いました。そういった意味で、今日の授業に感激しました。(教職員)

3. 安易な言葉になりますが、参加でき本当によかったです。

卒業生3名の高校生時代の学びを知っているだけに、「私達」が別々に生きた世代を繋げて、かつ、それぞれの生きる糧になっているのが伝わりました。また、前から在校生の顔を見ていましたが、それぞれ、腑に落ちている様子もあり、大変、感動しました。(教職員)

4. テキストを、自分に落とし込んで、自分の経験に紐付けながら、自分を支える軸にもできる。言葉は凄いなあ、と感心すると共に、卒業生の力量にも感心しました。2人は関わりのあった生徒だったので、学びや生きることが続いていっているんだなと感じました。(教職員)

5. ことばを掘り下げ、養うことで、自身の人生、さらには社会を豊かにしていこうという小山先生の目指すことの意味がよくわかりました。それが藤本さんや坂井田さん、森先生へ、そして次代の若い方へとつながっていく一連の流れが確実にあるということは、小山先生にとっても大きな実りですね。早急に正解を求めるのではなく、考える力を養うための授業の試みが頼もしく、素晴らしいなと思いながら拝見しました。(ライター・エディター)

6. これまでの受講生が同じ教材を通して繋がっていることがわかる授業でした。ありがとうございました。授業者の話し方もわかりやすく、特に森先生の話し方、話のまとめ方に感銘を受けました。私達受講生は流石違うなと感じました。(教職員)

7. 廊下での見学でしたので、登壇されている方の話が聞こえづらくて必死で耳を傾けていました。たくさ

んの方にお越しいただいていましたので、会議室等でマイクも使用していただけると皆さんに声が届くと思います。(教職員)

8. とても興味深い授業でした。3人の卒業生がしっかりとした考えのもとに話をされていて、高校時代からしっかりと考え、話し合うことの成果を見ることができたと思います。授業で使われている教材を私も読ませてもらいましたが、久しぶりに頭を使ってじっくりと文章を読んだと感じました。文章を読み解くこと、それを元に考えること、それを他の人と共有したり、議論したりすることはなかなか機会が持てないことだと思います。私自身も何十年も前の学生時代を思い出しましたが、そのあとそういうことをした覚えがありません。貴重な学生時代にこのような経験ができることは本当に素敵だと思います。ぜひ今後も私達の授業を続けてください。(本校保護者)

9. 50分の授業を、卒業した受講生3名が担当すると聞き、時間配分はどのようなだろうと思いましたが、実に見事な進行でした。事前の念入りな打ち合わせや調整があったからでしょう。興味深い授業でした。(教科書出版社)

10. 素晴らしい授業を拝見させていただき、ありがとうございました。同じく授業を作る身として、自分の授業に取り入れられる部分はないかという観点で準備の段階から見させていただいておりましたが、教科としての成長だけではなく、生徒の人間としての成長に焦点を当てている「わたしたち」の授業は、教科や方法が違おうとしても目指さなければいけないものと感じました。「目標のために過程があるのであり、過程を目標にしてはいけない」という先生のお言葉がしっかりと授業に表れており、自分も授業に取り入れていかなければならないと感じました。ありがとうございました。(教職員)

11. 協議でもコメントいただきましたが、卒業生授業者の教材理解と、その授業内での共有のしかたのたくみさに非常に感銘を受けました。私自身、高校生のおきにあの教材をよく理解できていたとはとても思えませんし(今も理解できているかどうかはわかりません)、いまの高校生にとってもそれはおそらく同様ではないかと思うのですが、テキストとその含意について考え続けてきた卒業生とやりとりすることによって、少しずつ色々なことを言語化し、理解していくプロセスになっていたのではないかと思います。ビデオレターもたいへん過不足なく、聞きやすいものになっていて、そのことも素晴らしかったと思います。授業者にとっても非常に準備の難しい取り組みだったのではないかと思います。(登壇者)

12. 今まさに勤務校で2年生に「である」ことと「する」ことを授業しています。文章の理解だけで手いっぱいになっていますが、学生の自分事にいかに落としこめるか、日々悩んでいます。卒業生のお三方のように、教材の言葉が自分の言葉として理解される、そんな授業を目指していきたいと再確認できました。(高等学校教員)

13. 小山先生が植えた種子が生徒の皆さんの中で芽を出し、新しい樹木となって、新たな種子を生み…後輩の皆さんの中に種子を植える、理想的な教育を目の当たりにしました。ソクラテスとプラトンの文章にある教育が、国語の授業でできる、ということを見せていただき、勇気をいただきました。ありがとう

ございました！（高等学校教員）

14. 授業は20分ほどしか見れず…。卒業生に自分の授業が生きているか、というのは教員としてたしかに非常に興味がある。それがこのような形で実現するのは稀有なことですよ。私も模索していくのみです。（高等学校教員・卒業生）

15. 3人のみなさん、それぞれのフェーズで自分の人生と作品を重ねた言葉が聞いて面白かったです。森さんが10年後はもっと異なる解釈をされるかもしれませんよね。そういったことも含め「私たち」はずっと続いていくんだろうと思います。（卒業生）

16. ディスカッションを普通に取り組める生徒に驚きました。中々教材や授業を自分ごとに捉えられない生徒が本校には多い中、今宮高校の生徒には授業も教材も地続きの環境にあるのだなと感じました。（高等学校教員）

17. すべての学び手に必ず学びの実りをもたらしてこられたことに敬意を表したい。（大学教員）

18. 授業者の方々が話していた内容の土台はすべて教科書でもよく使われる文章ですが、あれほどまでに各授業者の社会観や人生観に生きているのかとしみじみ感じました。（高等学校教員）

19. 三人の方の授業すばらしかったです。小山先生がとてもおしあわせそうでしみじみうれしく思いました。（一般）

3-② 研究協議について

1. 榊井先生が進行役をなされ、植山先生、杉本先生がパネリストとしてお話をされるという大変豪華な協議で、小山先生のこれまでの取り組みをお話を聞いて、出来ることならもう2時間ほどお話を聞きたかったです。欲を言えば、榊井先生のお考えも聞けたらうれしかったです。杉本先生の「頭の中のもやもやを言語化することだけはAIにはできない」という言葉を受けて、やはり国語教育は大切に守っていかなければならないと感じました。（教職員）

2. たくさんの先生方や卒業生の方々のご意見が聞いて、とても楽しかったです。テキストの読みについての問がありましたが、私の勤務校では、自分の言葉を持つことが難しい生徒が多く、本文を論理的に読むことが困難な生徒が多くいます。グループワークでは、いろんな意見を出して考えを深めて行くことが難しく、意見を出して終わりになってしまうことも多々あります。そんな中、自分の意見を持って他者の意見を聞くということは、他者も自分と同じように意見を持つ存在であると実感することができ、他者理解にも繋がっていきます。私の実践としては、国語の授業として深く意義深い授業が出来ていないと思っていましたが、植山先生から、それぞれの梅の木があるはずだとお話ししてくださり、嬉しく思いました。（教職員）

3. マイクを担当させていただきました。それぞれの生きた言葉に圧倒されました。多分、思考していることや感じていることが一緒だなと思いましたが、自分には、皆さんが分かる「言葉」を発することはできないもどかしさ（多分、言葉の変化速度や瞬発力がないこと）がありましたが、自分の肥やしになりました。（教職員）
4. 1限目しか参加できず。最後まで参加したかったです。どのような話が出たのかまた知る機会があれば嬉しいです。（本校保護者）
5. すごく授業の捉え方とか物事への考え方のレベルが高い...！と思いました。自分じゃそこまで考えられなかった、とかそういう考えもあるのか、とか新しい視点が得られました。国語だけではなく他の物事にも通じる本質的な話題がありそこで出てきた数々の意見がとても参考になるなと思いました。（本校卒業生）
6. テキストの解釈、情報としてのことば、実生活とつながらない意味をどう考えるか、など、多角的な視点があることに改めて気付かされました。私の業界はまさにAIの影響が顕著です。そんな現状の中、杉本先生がおっしゃった「AIにはできないモヤモヤ」をどう表現していくかを突き詰めていきたいと思いました。今回の研究協議は、教育界以外の一般人にとっても意義深いものだったと思います。ありがとうございました。（ライター・エディター）
7. 冒頭の校長先生の挨拶で、学校での学びがどう広がっていくのか、教員としては検証したい、というお話がありました。このような機会を整えてこられた学校の姿勢に感激しました。質問等を受けての意見交換も活発で、内容の濃い時間だったと思います。（教科書出版社）
8. 国語教育についてあまり明るくないということもあり、ふだん史料と格闘している歴史学の専門家としての立場と、一種の卒業生としての立場で発言しましたが、授業の現場に立たれている先生方の参考になるようなコメントができたかどうか、もう少し整理してコメント出来た方がよかったのでは、と思うこともあり、少し反省しています。とはいえ、久しぶりに小山先生と質疑ができて楽しかったです。（登壇者）
9. 現役の生徒さんの生のお声が聞けてとても参考になりました。（高等学校教員）
10. 授業の舞台裏の話が聞けてよかったです。他の先生方の「思い」を聞くことができ、参加してよかったと思いました。（高等学校教員）
11. 基本的に大人の集まりなので、濃い時間。濃い言葉のあつまりを感じました。大人なので、それぞれの人の人生の時間の集積がありますし、やはり言葉の濃さ、重さがちがう。“考える人”の集まりでした。知的環境に身をおけた幸せ。（高等学校教員・卒業生）

12. ありがとうございます。曲解はよいのかという話題については、その解釈のプロセスが大切なのではと思いました。「なぜそう考えたの?」ということと一緒に掘ることで新たな発見や気づきの機会、思考の振り返りのチャンスにしてはどうかと思います。(卒業生)

13. あまりにもレベルの高い協議なので聞くだけで十分勉強になりました。特に「種をまき続ける」ということばと「頭のもやもやは言語化できない」ということばは自分の授業にもって帰らせていただきます。ありがとうございます。(高等学校教員)

14. 活発で個々人の経験に基づいたお考えをお聞かせいただきありがとうございます。(大学教員)

15. 大学教授から卒業性まで、多種多様な考え方を聞くことができ良かったです。特に今後の授業を考えるのにも役立つ考え方「テキストをどう読むか」とか実社会へのつながりに関することなどで話が盛り上がったのも印象深かったです。(高等学校教員)

16. 皆様のご意見、ご発想たいへん感銘を受けました。ありがとうございます。(一般)

3-③ 企画全般について

1. 次回1月の企画に向けて、私たち研究会理事の人間もできることは何でもやりたいと思います。また何でも仰ってください。

そして、我々がなぜこんなに国語教育に向き合っているかといえば、未来ある子どもたちと明るい社会を作っていきたいからだと思います。

今宮での学びはこれから生徒の皆さんが「より良い社会」とは何かを考え、それを実現するためにきっとなくてはならないものだと思います。だからたくさん学び、たくさん考え、充実した高校生活を過ごしてほしいと思います。(教職員)

2. 今日の研究協議では、小山先生や小山先生に縁のある皆様からの元気をもらいました。今年の二学期の初めに、小山先生の「である・する」授業に憧れて、新婚旅行に行く飛行機の中で、これまでに小山先生の研究授業や教育センターでの研修でいただいたたくさんの資料を読みました。卒業生の方達の、卒業後に授業を振り返った文章を読み、感動して泣いてしまいました。言葉を扱う授業とは、思考手段を育てるということであり、思考とは自己について、自分と社会について考えるということであり、自分や社会を考える言葉を持つということは、自分自身がとても心強くてのしい存在になるのではないかと感じました。自己や社会への思考力がないとは、ぼんやりしたまま人生を送る、不安やつまらなさがあるのでは、と感じました。人生の不条理や避けられない悲しみに直面したり、苦難の多い道であっても、哲学的なたのしみを持つことが出来ることや、思考し続ける力を持つことの強さを感じました。小山先生は、生徒たちに人生を生きて行くうえでの大きな贈り物をされていると思います。私も生徒に力を授けられたらいいな、苦しくもワクワクする授業が出来るようになりたいと感じました。(教職員)

3. 「0 (zero)」ベースの私案から関わらせていただき、小山先生の熱量の「風」に便乗させていただき、楽しい時間を与えてくれたことに感謝いたします。授業をしてくださった卒業生3名、またアンケートを書いてくれた他の卒業生とのコラボを目の当たりにし、正直「小山先生のことばが羨ましい」の一言に尽きます。また、研究協議では、著名な3名のお話や、他校の国語科教員の実践での悩み等、そしてその場に行くことができた卒業生の「生の言葉」が飛び交う場に存在できたことが本当に幸せでした。(教職員)

4. 個性の喪失、唯一無二になるにはどうしたらよいか、という不安があるというのが現代の高校生らしい悩み、不安だなあ、と感じた。デジタル面が普及していき、誰もが同じものにアクセスできるようになり、その便利さが逆に個性を喪失させる、と思いこんでいる生徒が多いのかと思う。例えば誰もが同じ記事を読み、記事内の同じ言葉を使い、そこに集団や普遍性を感じ、個性の喪失を感じるようなものなのだろうか、想像した。同じものに対する人の感じ方は全く違うもので、人と同じたりえない、全く同じ嬉しさ、苦しみは何人たりとも完全には共有できない。だからこそ、少しでも人とつながるために、言葉を獲得することが大事で、そういう面でも人ほど唯一無二の存在はないと自分は考えているが、高校生が自分らしさとは何かということに悩んでいるということは斬新な発見だった。(教職員)

5. 本当に貴重な機会でした。もう二度と同じ体験は出来ないと思えるそんな素晴らしい企画になったと思います。現役高校生にはまだまだ焦らないで大丈夫、今大変な時期だけどそれを乗り越えたら楽しいことがいっぱいあるということ伝えて欲しいです。(本校卒業生)

6. 今後、社会に出て、これほどまで丁寧に文章を読み、ことばと向き合う機会を持たない方が大半だと思います。また、「私達が立っている場所」で得たものについても明確には気づかない場合もあるかもしれませんが、じっくり読み、考えた経験は、きっと人生の大きな支えになると思います。私の業界では、きちんと読者に届く文章を書く力が求められるのですが、テクニック以上に深い考察力や多くの「引き出し」を持つことが重要です。「私達が立っている場所」の授業は、そういった人材を育ててくださる一助になるようでたいへん心強いです。小山先生、これからも頑張ってくださいね！(ライター・エディター)

7. 題材はとても難しく、ひとりで向き合うにはパワーがいるのかと思いますが、同級生と、また今回のように世代をまたがって話しあえる授業に出会えた今宮の生徒がほんとにうらやましいです。文章を読み解くのに、その場にあるものだけでなく、いろんな知識や教養が必要で、そして深く考えることに向き合える、向き合わざる負えない貴重な授業を楽しんでください。(教職員)

8. 今宮高校独自の授業を実際に見てみる方ができてよかったです。
今3年生の娘のオープンスクールなどで、興味を持ち、今宮高校を選択するひとつの指針となった独自の授業。今後も保護者や地域の人たちに少しでもよいので公開していただけたらうれしいです。今後も楽しみにしています。(本校保護者)

9. 恵まれた学習環境のなかで、積極的に学んでいる真面目な生徒さんだという印象を受けました。
小山先生の信念と熱意に満ちたご指導のもと、自身を豊かにするためのことばの力を存分に伸ばしてい

かれることを願います。(教科書出版社)

10. 元受講生が発表の中で言っていたように、人間として成長した後にもう一度同じ教材を読み返すと、今とは違った見方をすることができたり、より深く理解することができるはずです。みなさんがどのように成長していくかを楽しみにしています。頑張ってください。(教職員)

11. 単に「言葉にふれる」だけであれば簡単にできる時代になりましたが、よく吟味された言葉にふれ、それについて考えたり話し合ったりする場をもつことは簡単にはできない、というのが現状だと思います。今宮高校では、そういった場を継続して作ってこられたわけで、25年かけて卒業生と在校生がその経験について共に語る場をもてるほどになった、というのは素晴らしいことだと思います。毎日の授業は難しいと思いますが、現役の高校生の皆さんも、自信をもってたゆまずに取り組んでいただきたいと思っています。(登壇者)

12. 正解がない問いを議論できるのは、とても貴重な経験です。その仲間を大切にしてください。(高等学校教員)

13. 小山先生 今日ありがとうございました。たくさん種をいただいて帰ります！！(高等学校教員)

14. 現役の今高生にはいつか私が教えたいです。友人とこの場で数年ぶりに再会しましたし、教育実習でお世話になった楠先生にご挨拶できてよかったです。得がたい場でした。ありがとうございました。(高等学校教員・卒業生)

15. 私も本、コトバだけがたのみの10代でした。教員となり、最近の子どもに接するにつけ、コトバは子供たちにはもはや救いにならないのでは、と思うことがあり、できるだけ“わかりやすい文章”を考えてばかりだったのですが、そうではなかったと改めてひやっとしました。また明日から頑張っていこうと思います。ありがとうございました。(高等学校教員)

16. 今日はありがとうございました。こうして機会をいただけて私たちの「私」について考えるきっかけをいただいているんだと嬉しくなりました。(卒業生)

17. 貴重な時間が体験できて感謝の限りです。ありがとうございました。単純な疑問ですが「私たち～」の授業は小山先生からどなたかに引き継いで続けていかれるのかを聞いてみたかったです。(高等学校教員)

18. どんどん成長していく姿が楽しみです。(大学教員)

19. 扱う教材(文献)について、古典作品バージョンもあるとよりおもしろく、充実するかなあとも思いました。(高等学校教員)

20. すばらしいご実践だと思います。ありがとうございました。たいへん勉強になりました。これからも TO be continued のご発展を心よりお祈りしております。次回もたのしみしております。よろしくお願いいいたします。(一般)

〈 私達が立っている場所 〉



私達まつり
2024

To be continued.....

(さらに番組は続きます....)